

かし、必ず今年こそ下級生を引っぱって、その伝統の力を打ち破るこゝろが出来ると思

士期生

現役の時をふりかえる

石崎 寿夫

高校卒業から、はや三年目となりました。正確に言えば三年生の三分の二はハンドボールとは縁を切っておりましたから、その方で教えること三年はたつぷりすぎている。今も学生生活を続けていられる関係が、特に自分に変化があったとも感じることはない。勿論、人間的に成長を遂げた点などは毛頭申されず、どうして高専生活の延長と云った気分が日々を過していきまふ。ハンドボールも大学に入つて又始めましたし、生活に特別な変化もなかつたのですから、高専ハンドボール部時代をなつかしむことも、大してありませんでした。けれども、今、當時をふりかえつて、部員連中のことを、勉強合のこゝろ、先輩のこゝろなど思いあこそうとして、又、きれいな記憶、そのムードといったものだけがうかんできて、年が過ぎ、ほんの三年が僅にとつては長い年月であつたと、つくづく感じられます。人間は苦しい思い出は忘れるか、又は、美

化されて記憶にどこめられると言いますが、一年生当時、嫌でたまらなかつた練習の苦しさ、さぼつた時のうれしさ、二年生になりキヤプテンになつた時から、部員が主として勉強との両立問題で、悩み、あるいは退却したりするのをまよとめていく、いはばマネーシメントの苦勞も、今となつては、遠足の思い出と變るところありまふ。生来、個人的、非社交的、悪く言へば、利己的の僕がキヤプテンの任務をつとめ、あつたのも、谷口君を初めとする同輩年の連中をほじめ、先輩諸兄、下級生の援助があれはこそでした。谷口君と僕とは中学時代の同級生でしたし、クラブに加入したのも彼にまきつけられたついでに入つたので、夏期合宿前に心蔵脚氣を患ひ、キーパーの重任を僕に背負わせたのも彼です。その他、中学時代の顔役たる彼以後に、下級生の有能なる連中を大量にスカウトし、ハンドボール部隆盛の礎を築きました。その功績は天なるものがあります。その後、高畑、浅野、中西、倉橋といった連中が統々入部したので、そのうち、高畑、浅野がやめ、中西はその後副主將の任につき、現在は、早稲田大学に進学し、倉橋は歯科大一入部し、に進学しました。以上の連中がオースターの

メンバーとする。春休み以前から入部して三年生前期まで活躍した連中に、田中杉浦、植西、上田といった連中がいました。この年以來と思います。春休みには右記の以外に松浦を加え、新入生に期待をかけて七人の小人教で山中先輩と共に合宿した時は、お互い遠慮気兼ねいらない同級生だけでまとまった楽しい合宿が出来たもので、大体僕らの学年が入部が遅れたため、技術的にも傑出した者がみえず、個性あふれた意気盛んな上級生と下級生の間には、強引に干渉を繰り返す者もみえず、みとなしすぎるくらいがあつたようです。勿論、現在にも、高校生時代の純情さを持ち続けられているか、かは保証の限りではない。手紙も、当時、僕が勿論無口で、おとなしい真面目な生徒で、現在に及んで、おとなしい植西も、おとなしい好人物で、受難益れるばかりでした。谷口もユーモア解する文学青年であり、杉浦は、ごく平凡な明るい部員で、まともな方に属しました。上田は体力にめぐまれ、運動万能で、ミスター男柱のような風貌でしたが、善良な性格の研主で、これといったエピソードもないようです。こうして書いていくうちに、段々記憶がよみがえってきます。みとなし、一方のような連中も、それがいなくせある個性の持ち主だったと訂正しなければならぬ。いかも知れませんが、二年生に進級し、三年生と一年の間には、三年生も引退するに及んで、まともにもなくなり、技術面もぐくみ退歩し、二年の終り頃から三年生初めまでには、他校と比し劣るところが、バックスが出来たようです。二年生は主としてバックスでした。特に運動能力にすぐれず、運動神経に恵まれたい者が多かったのか、あれほど進歩したので、今、思い出して嬉しうもの、です。回顧の念に耐えませんが、今、くにも、果し、消息をかわしたい気持ちがあります。OB戦にも余り出て来ないようですが、同期生同士の、先輩、後輩諸君とも、堅密にしたもので、植西は、度々でヨット、上田は、関谷でスキーと、多忙な生活ですが、是非一度会合して、昔々の純情を確かめたいものです。われらが先輩、後輩諸君に、高津高校ハインドボートル卒業生の範たる十一期生の面々を紹介して筆を置きます。

手前味噌ばかり申し上げまして、お耳障りの方には、深くおわが申し上げる次第です。

終り